



# 議会だより

松崎

No.122  
平成31年1月24日

## 《主な内容》

### 第4回定例会（12月5日～12月6日）

- 一般会計補正予算 他……………2
- 町政を問う 一般質問に5議員……………5
- 議員研修報告（常任委員会視察・郡議員研修会）……………10

「消防団出初め式（一斉放水）」



松崎町は「日本で最も美しい村」連合に加盟しています。

# 平成30年12月定例会

平成30年第4回定例会が12月5日、6日の2日間で開催されました。

今回の定例会では、一般会計補正予算など18議案を審議し、1件を否決、ほかの17議案は原案のとおり可決・承認しました。

## 一般会計補正予算

場合など、それらを取り除くための費用で場所は決まっていない。

補正予算(第3号)は、台風24号で被災した石部・雲見漁港の応急対策工事費や小中学校へのエアコン設置費、ブロック塀耐震改修補助金などの増額、財政調整基金への積立などにより、歳入歳出にそれぞれ1億7711万円を追加し、補正後の予算額を39億3522万9千円(4.7%増)とした。

**問** 道路維持費に緊急対策業務委託150万円が計上されているが、場所は決まっているのか。  
**答** 産業建設課長 大雨や台風による土砂崩れなどで、道路や側溝が埋まっ

た場合など、それらを取り除くための費用で場所は決まっていない。今年には台風などで既に予算を使い切っているため、今後の災害などに備え予算を確保したものである。

**問** 保健体育総務費の修繕料125万円では、勤労者体育館の床の修理以外も行うとのことだが、その内容は。  
**答** 教育委員会事務局長 体育館の床が少し波を打っているため、床下の器具の高さ調整をするもので、この費用が約50万円ほど。他にはテニスコート夜間照明の電球交換で約45万円などを見込んでいます。

**問** 今回の補正では財政調整基金積立に1億1500万円を計上している。商店街は街灯が点いていても人が歩いていない、生コン車も走っていない、大工さんの仕事もないと

**問** ブロック塀の耐震改修補助金を増額したが、この金額で改修が必要な部分はクリアされるのか。  
**答** 総務課長 今年度は既に7件について交付決定しているが、それ以外に8件の申込み・相談を受けている。ほかに危険箇所はあ

るので、継続してこの補助金制度を周知していく。

**問** 町では危険箇所を調べるため、各地区を回っていると思うが、対応が必要な箇所はどれだけあるのか。  
**答** 総務課長 全ての箇所をまだ回ったわけではなく、2回目に回ったときに気が付く箇所もあり、現在集計中である。

積み立ててあるお金は無駄にならないよう使い方を精査し、町民の皆さんに喜んでいただけるよう考えていきたい。

いう松崎の経済が冷え切っているなかで、貯金するよりも投資的経費に充てるという考え方は。  
**答** 総務課長 町としても入ってきたお金は町民に還元したいが、今年度も残り3か月となり、なかなかそのような使い方ができないので積立金に計上した。

積立金に計上した。積み立ててあるお金は無駄にならないよう使い方を精査し、町民の皆さんに喜んでいただけるよう考えていきたい。

無駄にならないよう使い方を精査し、町民の皆さんに喜んでいただけるよう考えていきたい。



12月定例会の様子

**問** ブロック塀や避難路・避難道の整備、街灯の設置要望など、身近で細かな問題もあり、安心・安全な生活を送るための投資的な経費も必要である。ソフト面においても、総合的に将来に向かってのまちづくりを考えたとき、新年度に向けて、どれだけ意気込みがあるか、職員のモチベーションを高められるか。  
**答** 町長 町職員のモチベーションはすくなく上がっている。例えば道の駅を作るにおいて、企画観光課は課長をトップとして必死にほかの道の駅を探索したり、計数的にも非常に細かなところまでやっている。モチベーションは極めて高いと信じて疑わない。

そのほかの課の職員についても非常にモチベーションは上がっており、今まではその辺が大いに変わっている。

条例

◎松崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

町職員の給料・手当の額などは国家公務員の給与に準じ本条例で定められている。

本年の人事院勧告では、民間との格差是正のため国家公務員の給料・ボーナスとも引き上げの勧告がなされ、関係する法律が改正されたことから、町条例においても同様の改正を行うもの。

主な改正点は次のとおりであるが、今回の改正で5年連続の引上げとなった。

- 給与表の改定
  - 4月に遡及し月額400円→1000円の引上げ(平均0.2%)
- 勤勉手当の引上げ
  - 12月支給分の支給率を0.05月引上げ(0.9→0.95月)
- 宿日直手当の引上げ
  - 4月に遡及し1回あたり

200円引上げ(4200円→4400円)

**問** この給与改定によって、どれだけ町の人件費が増えるのか。

**答** 総務課長 財政負担については、概ね200万円増額となる。

◎松崎町消防団条例の一部を改正する条例

人口減少や若者の町外流出などに伴い消防団員の確保が年々難しくなっており、人員不足により小隊としての機能を維持できなくなってきたことから、消防団員の資格の改正、定員の改正を行うもの。

団員確保のための資格の改正として、松崎町内居住者のみであったものを、町内に勤務している町外居住者も団員となれるようにするとともに、定員270人を16人減らし254人とした。

定員の削減に併せ小隊の再編なども行い、4分

団1小隊(大沢・明伏・小杉原)の定員を18名から13名に、2小隊(池代)を15名から13名にそれぞれ削減するもの。

また、5分団(岩科地区)においては、2小隊(野田・中村・松尾)、3小隊(峰)、4小隊(八木山)を一つの大隊に再編し、定員合計35名であったものを26名に削減することとした。

**問** 団員確保が困難な状況であり、女性団員を募集してはどうか。災害時の避難所で女性ならではの優しい対応が可能とと思うが、女性団員による後方支援的な考えはないか。

**答** 総務課長 今、消防団が直面している問題は、火災時などにおける小隊の機能維持であり、実際の現場で対応できる体制を確保するために改正するものであるが、将来的には女性団員の活躍の場というの、考えていく必要があると思う。

**問** 定員を減らし、小隊を再編するということが、緊急時などの情報伝達や団員同士の情報共有はどのように行うのか。

**答** 総務課長 火災の場合、消防署から消防団の部長以上にメールで情報が流れる。風水害などで出動を要請する場合も町から団員に対しメール発信している。また、消防団へ配備している無線機も数を増やし対応している。



平成31年 消防団出初め式

人事・その他

◎固定資産評価審査委員会委員の選任について

石田博之氏(峰輪)が平成31年1月21日をもって任期満了となるため、再任することに同意した。任期は平成35年1月21日まで。

◎過疎地域自立促進計画の変更について

道の駅・旧依田邸や診療所の整備に過疎債を活用できるようにするため、本計画を変更することにについて承認した。

◎事務用端末(パソコン)の売買契約について

業務用パソコン47台を更新するもので、指名競争入札の結果、次のおり契約することに承認した。

- ・契約の相手方 下田オー・イー・システム
- ・契約金額 702万円

「公の施設」指定管理者を指定  
 Ⅱ 「道の駅」は否決Ⅱ

指定管理期間が平成31年3月31日で満了となる公の施設について、現在指定している管理者を引き続き指定すべく議会の議決を求められ、「道の駅花の三聖苑伊豆松崎」を除き原案のとおり承認した。

決となった。なお、明治商家中瀬邸及び民芸館については指定管理を止める方向で考えたが、その後の具体的な運営について十分な議論、検討が必要であることから、指定管理期間を2年間とした。各施設の指定管理者については次のとおり。

「道の駅」については、松崎町振興公社を5年間で、指定する内容であったが、「赤字経営が続いている中で、来年度に整備予定の直売所の管理運営費がどうなるか先が見えない、5年間は長すぎる」との意見や、「振興公社が担う事業は、松崎の観光の根幹を成すものだと思うが、これからの運営について具体的な方策が示されていない。もう少し具体的な運営方針を定め、次の議会に上程すべき」などの意見が出され、採決の結果、賛成少数で否

公の施設の指定管理（平成31年4月1日から）

施設名	指定管理者	指定の期間
伊豆の長八美術館 重要文化財岩科学校 環境改善センター	一般財団法人 松崎町振興公社	5年
明治商家中瀬邸、民芸館		2年
総合福祉センター	社会福祉法人 松崎町社会福祉協議会	5年
岩地・石部・雲見地区の 集落排水処理施設	各地区の管理組合	5年

第4回定例会 賛否状況一覧

議案番号	件名	議 員								結 果
		深澤 守	伴 高志	渡辺 文彦	藤井 要	福本 栄一郎	佐藤 作行	稲葉 昭宏		
議案第70号	松崎町職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第54号	松崎町消防団条例の一部を改正する条例について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第55号	賀茂地域の広域連携に係る連携協約の変更について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第56号	下田市、東伊豆町、河津町、南伊豆町、松崎町及び西伊豆町における幼児教育アドバイザーの共同設置について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第57号	平成30年度松崎町一般会計補正予算（第3号）について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第58号	松崎町過疎地域自立促進計画の変更について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第59号	公の施設の指定管理者の指定について（伊豆の長八美術館）	×	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第60号	公の施設の指定管理者の指定について（松崎町営民芸館）	×	×	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第61号	公の施設の指定管理者の指定について（松崎町営明治商家中瀬邸）	×	×	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第62号	公の施設の指定管理者の指定について（松崎町営道の駅花の三聖苑伊豆松崎）	×	×	×	○	○	×	○	否 決	
議案第63号	公の施設の指定管理者の指定について（松崎町農村環境改善センター）	○	×	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第64号	公の施設の指定管理者の指定について（重要文化財岩科学校）	×	×	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第65号	公の施設の指定管理者の指定について（松崎町総合福祉センター）	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第66号	公の施設の指定管理者の指定について（岩地漁業集落排水処理施設）	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第67号	公の施設の指定管理者の指定について（石部農業集落排水処理施設）	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第68号	公の施設の指定管理者の指定について（雲見漁業集落排水処理施設）	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第71号	平成30年度松崎町（第1回）事務用端末売買契約について	○	○	○	○	○	○	○	原案可決	
議案第69号	固定資産評価審査委員会委員の選任について	○	○	○	○	○	○	○	同 意	

○：賛成 ×：反対

# 町政を問う

**問**

小中学校へのエアコン設置は

**答**

3200万円を補正計上



藤井 要 議員

**問** 町は9月定例会で、

関係者の意見を伺い効果的な整備計画を検討するとしていたが、設置についての結論、今後の計画はできたのか。また、電気料の保護者負担は。

**答** (町長)

小中学校へのエアコン設置については、学校長やPTA会長からも要望書をいただいている。国の補助制度も設けられたことから、普通教室へのエアコン整備費3200万円を今回の補正予算に

計上し、5月中の完成を目指すしていく。

なお、電気料の保護者負担は一切考えていない。

**問** 危険家屋、このまま放置か

**答** 協議会等設置を検討

**問** 火事により損壊したまま放置されている家屋や、空き家になった後、長期間にわたり使用されずに荒廃した家屋・敷地が見られるが、町はこのまま放置して置くのか。

環境整備条例等の対策は検討しているのか。

**答** (産業建設課長)

火災後の家屋について、現状はそのままとなっているが、基本的には個人財産のため、所有者の責任において適正に管理していただくことになる。

例えば、所有者不明の家屋を代執行により取り壊した場合、費用の回収ができないことも見込まれるので、その辺は議論も必要になってくる。

空き家対策の計画については、近隣自治体の状況も確認しながら、協議会設置などを検討したい。

**問** 石畳の改修整備を

**答** 景観に配慮し実施

**問** 今年の「長八まつり」は、浴衣を着た人たちが賑わい、松崎の歴史と文化に溶け込んでいた。しかしながらインスタ映えするであろう、近藤家横の石畳の小道は損傷

し、歩きにくくなっている。改修が必要と思うが、整備計画はないのか。

**答** (産業建設課長)

石畳となまこ壁の風景が非常にマッチしている場所です。雨水がたまって、浸透性のある側溝蓋を使うなど、景観に配慮した整備を行っていききたい。

**問** 松崎の歌に応援は

**答** 未来に期待し支援

**問** 本年度より「松崎町

のうた」を育てる会が、子どもたちや町民の皆さんと歌詞づくりを行なっている。

松崎のイメージアップを図ることからも支援する計画はないのか。

**答** (町長)

FULL-SATOP ロジェクトは3年計画で、平成31年が最終年度となる。町民参加による松崎のうたづくりを通じ、郷土への愛着、教育、観光にと大いに期待されることとあり支援をして行きたい。



石畳の改修を (なまこ壁通り)

## 問 花畑再開の理由は

## 答 町民の活動を後押し



渡辺 文彦 議員

**問** 平成30年度予算から、田んぼを使った花畑関連経費を見送ったにもかかわらず、平成31年度に事業を再開することだが、その理由は。

**答** (町長)

事業効果の面や実施方法を含めて、今一度町民の方にこの花畑の活用を考えていただきたく、見直しも含め一時中断した。それを受けて、町民の一部の方々が花畑継続のために動き始めたので町も参加することにした。

生懸命取り組んでいきたい。利用者が少ない。

**問** 利用者見込みの根拠は

**答** 類似施設の実績を勘案

**問** 三聖苑に直売所を開設するにあたり、利用者見込みを9万7千人と試算しているが、その根拠は。

**答** (町長)

町内や近隣の直売所の利用実績を勘案し、9万7千人と見込んだ。本来だと町内や近隣のスーパー利用者なども同じ商業圏域に入るが、これらはあえて見込んでおらず、過大な数字であるとは全く思っていない。

**問** 町内にはすでに2カ所の直売所がある。それらの施設と違う特徴が必要と考えるが、どのように差別化を図るのか。

**答** (町長)

松崎町のあらゆる地場産品が集まる直売所にし

たい。また、手数料率はなるべく低く抑え、生産者や消費者に少しでも利益のあるものになりたい。

**問** 道の駅パーク構想では、管理運営に住民との関わりが必要が示されているが、どのような関係を考えているのか。

**答** (企画観光課長)

パーク構想を策定するにあたりいろいろな方々の意見をいただいた。策定後は、公式な話し合いの場は持たれていない。

いが、地元の方々からいろいろな提案を承っている。今後、管理運営の中で地元の方々の協力をいただいでいく。

**問** 実証実験の結果は

**答** 非常に低い利用率

**問** 順天堂病院直通バス運行の実証実験の結果は。

**答** (町長)

非常に低い利用率となった。私の利用予測の甘さもあった。



町民有志による種まき (花畑)



食事の改善は（伊豆まつぎ荘）



深澤 守 議員

**問** 特定業者の排除指示は

**答** 全くない

**問** 町長が、町内業者の特定のお弁当屋さんへ発注するなという指示があったと聞いたがいかがか。

**答**（町長）  
全くない。どこからそういう話があったのか。

**問** 宿泊者減の分析は

**答** 天候など様々な要因

**問** 料金改定後の7月から、まつぎ荘の宿泊客が730人減少しているが、現状分析は。

**答**（町長）  
7月の料金改定に関わらず、4月以降、全ての月で前年度を下回っている。料金の改定が原因ではなく、台風の影響など様々な原因がある。

**問** 何度もまつぎ荘で食事をしているが、イカのリングフライ、カジキの刺身など、満足の得られるような食事ではない。料理がよくないからお客様が減ったという認識

**問** はないか。

**答**（町長）  
全くない。人の舌というのは様々であり、満足する人も、満足しない人もある。それを少しずつ変えていくことは現在やっている。

**問** 売上見込の見直しは

**答** 見直すつもりはない

**問** 道の駅の直売所及び天城山房の売上げ見込みが過大に思える。見直すべきではないか。

**答**（町長）  
見直すつもりは全くない。町内の直売所などの実績を勘案したもので決して過大な数字ではない。

**問** 松崎から湯の花売店にはなかなか行かない。逆に考えると、下田・南伊豆から大沢に来るのか、ほのぼのの売店を利用して高年齢者が大沢に行くのかあてにならない。算定基準の数値は過大ではないか。

**問** はないか。

**答**（町長）  
湯の花売店16万人、ほのぼのの売店8万人は間違いない数字、実績である。深澤議員はそれすらもおかしいと言っている。この数字は聞いてきた間違いのない数字である。

**問** まつぎ荘の利用者減少や順天堂病院直通バスの需要見込みの誤りもあり、これからの道の駅の運営が心配される。経営不振に陥った時など自らの責任をどう考えるか。

**答**（町長）  
私が管理者になったことが原因で、町の施設が赤字になった場合や、私が企画した新規事業が失敗した場合、当然、責任を問われる。

しかし、まつぎ荘、直売所、順天堂直通バスについても、今後の対応策を模索するものであり、その結果のみで私の政治責任を問うことはいかがなものか。

問 診療所の建設計画は

答 2021年4月頃に開設



伴 高志 議員

問 診療所開設までの予定、概算総事業費、財源の計画は怎么样了っているのか。

また、運営方法や医師の確保はどうするのか。

答 (町長)

現在、当町には診療所が2つしかなく、加えて医師の高齢化や若い医師が戻って来ないなどの問題を抱えている。このままだとやがては当町から診療所がなくなってしまうことが危惧されるため、津波浸水区域外で、かつ

無医地区でもある岩科地区に新たな診療所の建設を計画しているものである。

現時点においては、診療所の医師の確保に全力を挙げているところであるが、計画としては2019年度に実施設計を行い、2020年度には建設工事や医療設備の導入

として2021年4月頃の開設を予定しており、診療所開設後の運営については、町から事業者へ管理運営を委託する指定

管理者制度の導入を考えている。

なお、今回の計画に係る概算総事業費としては1億9千万円を見込んでおり、その財源としては県補助金や過疎債を充てる予定で考えている。

問 旧依田邸改修に重点を

答 どちらにも重要

問 道の駅の改修ではなく旧依田邸の改修を重点にするべきと考えるが、町長の考えはどうか。

答 (町長)

道の駅・旧依田邸の整備活用計画については、町で一方的に計画を策定したのではなく、議会選出議員、地元関係者、産業界関係者、まちづくり団体、金融機関などで構成する道の駅パーク構想基本計画策定委員会において協議検討を行い、本年3月に基本計画を策定したものである。

道の駅・旧依田邸のど

ちらかに重点を置くということではなく、どちらも重要であると考えている。

問 猫の避妊費用助成は

答 新年度から創設

問 飼い主から放置された野良猫を動物愛護団体の方々が捕獲し、実費で避妊・去勢手術を行っている。

南伊豆町や西伊豆町でもこの活動を支援する目

的で費用助成を行っているが、当町でも同様の補助制度をつくる考えはないか。

答 (町長)

質問の避妊・去勢手術については、飼い主のいない猫の増加を防止するため、繁殖活動を抑制していくものである。

当町にも補助制度創設の要望が多数寄せられており、新年度からの創設に向け準備を進めていく。



繁殖を抑制し野良猫の増加を防ぐ



## 問 直通バス運行の継続は

## 答 結果を見ると無理



福本 栄一郎 議員



診療所建設予定地（旧岩科幼稚園）

**問** 町長は議員時代620人の嘆願書を提出し、町長選の公約でも松崎からの乗り換えなしで順天堂病院行き直通バスの運行を掲げたが、今回の結果に関わらず公約を守る考えはあるのか。**答**（町長）

現在、協議会で検証結果を踏まえて、平成31年4月以降の新たな運行方法について継続協議している。

**問** 協議会ではなく、町単独で運行する考えは。

**答**（統括課長） 結果を見ると、松崎町単独ではできないと思う。

**問** 直通バスの実証実験が10月31日に終了し、その結果は4便累計504人、1便当たり平均1.18人だった。この原因と結果に対する町長の感想は。

**答**（町長） 私の利用予測の甘さもあつたと思うが、非常に低い利用率となった。通院者の交通手段は自家用

車使用が多かったことが要因と思う。4月から直通とはいかなかったが、実証実験ができて良かったと感じている。

## 問 診療所開設は

## 答 医師の確保を待つて

**問** 岩科地区の新たな診療所の建設計画は、委員会などで協議されたのか。

**答**（町長）

今まで関係する委員会で正式な協議はしていない。ある程度、医師確保の目的がたつた段階で、計画について保健対策推進協議会などで説明し、理解を得たい。

**問** 当町では、2つの診療所の医師が学校医や診療、往診などで町民の医療を担っているが、説明や話し合いがされたのか。

**答**（町長）

医師の確保ができ次第、建設計画の詳細を説明し、理解を求めていきたい。

**問** 診療科目や町民が願望する往診の考えは。

**答**（町長）

町は、内科と外科を含めた総合診療を希望し、地域に根ざした医療と往診を含めてお願いしたい。

## 問 フェリーの負担金は

## 答 関係機関で協議

**問** 駿河湾フェリーは、平成31年4月1日以降も県や関係市町で継続運行するが、当町の負担金は。

**答**（町長）

今後、4月からの運営体制を検討協議するとともに、負担割合は関係機関で協議して決定する。

**問** 船舶の運航は多大の費用が掛かり、将来的に当町の貧弱な財政の圧迫が懸念されるが考え方は。

**答**（町長）

公的機関が行うから赤字でいいとは思っていない。黒字に向けて関係機関で努力していく。

## 常任委員会視察研修

総務常任委員会では、10月9日から3日間、今後のまちづくりの参考とするため新潟県長岡市・富山県小矢部市を視察しましたので、その概要を報告します。

### 中越大地震を教訓に防災体制を強化 (新潟県長岡市)

長岡市は、人口27万1千人程で新潟県中央部に位置しています。平成17年、18年、22年と3度の合併により10市町村を編入し、現在の長岡市となりました。

平成16年10月に発生した中越大地震では最大震度7を記録し、長岡市だけでも死者28名、負傷者347名、建物1643棟が全壊するなど大きな被害を受けたことから、この大震災の経験を活かし防災体制の強化に取り組んでいます。

その一つとして「地域防災計画の見直し」では、災害予防と減災対策を重



防災対策本部会議室 (長岡市役所)

視し、住宅の耐震補強や家具固定を推進しているほか、中身のわからない個人からの救援物資が、仕分けや保管場所など災害対応の支障となったことから、災害発生直後の個人からの救援物資は受け取らないことなどを計画に明記しました。

また、物資の備蓄においては、市民が備蓄しにくい発電機や投光器、簡易トイレなどは市で備蓄しますが、大型ショッピングセンターやスーパーが多く流通在庫の環境に恵まれていることから、消費期限があり廃棄も必要となる食料・飲料水の備蓄は行わず、市民には家族3日分の食料備蓄を要請しています。

ソフト面においては、「中越市民防災安全大学」を開講し、地域の防災リーダー育成や中越大地震の貴重な体験や教訓を後世につなぐ活動にも力を注いでいます。

なお、中越大地震の際、被災者の仮設住宅を設置したエリアを「長岡市民防災公園」として整備し、3ヘクタールの広大なオープンスペースは、通常は市民の「やすらぎ・憩いの場」として利用されていますが、災害時には防災拠点となるよう1

00トンの飲料水兼用の大型貯水槽が設置されているほか、下水道に直結した災害用トイレが設置できるなどの工夫がなされています。

静岡県は防災対策では先進県であり、ほぼ同様の体制がとられています。長岡市では実際の経験をもとに、避難所となった学校をスムーズに再開できるよう校舎などの教

育環境を確保したうえで、避難所スペースとなる体育館の機能強化や給食室の整備、救援車両の通路を設定するなどの対策がなされており、大いに参考となるものでした。



長岡市民防災公園

### 住民税1%の活用で まちづくり (富山県小矢部市)

小矢部市は、人口3万人程で富山県の最西端に位置しています。このたび市民と行政との協働により、特色あるまちづくりに取り組んでいる小矢部市を視察しました。

小矢部市は、平成18年12月に就任した新市長の公約で、個人住民税の1%を市民に還元するシステムとして「おやべ型1%まちづくり事業」を実施しています。この事業は、地域の活性化や特色あるまちづくりの推進を目的として、市民自らが考え、みんなで一緒に行動する事業に対し、個人住民税の1%に相当する額を財源として補助金を交付する事業で、平成21年度からスタートしました。

対象者は自治会などの自治組織やボランティア団体などで、地域の活性

化事業や福祉向上事業、人づくり事業などが対象となり、人件費や食糧費は補助対象とはなりません。が、講師謝礼や保険料、原材料費などは全額補助対象経費となり、新規事業は30万円、2年目以降の継続事業は15万円が補助金の限度額となります。

また、市民と一体となって取り組むため「おやべ型協働のまちづくり会議」が設置され、有識者、団体推薦者、一般公募による委員が事業の審査や検証を行っています。

実績としては、毎年の予算枠約1300万円に対し60〜80件が事業採択され、予算枠の75〜95%が補助金として交付されています。平成29年度の参加延べ人数は3万8000人余りと多くの市民が携わっており、お年寄りの活動、子どもとのふれあい効果も表れているとのことでした。

### 地域資源をいかに活用して 地方創生を実現するか

#### 賀茂郡町議会議員研修会

11月19日、賀茂郡町議会議長会主催による賀茂郡町議会議員研修会が河津町で開催されました。

当日は、賀茂郡内の町議員、事務局職員58名が集い、講師として東海大学文学部広報メディア学科教授 河井孝仁（かわい たかよし）氏を招き研修が行われました。

河井氏は、静岡県や静岡県総合研究機構での勤務を経て、現在は東海大学文化社会学部教授としてシティープロモーションや地域情報論についての調査・研究を行っており、当日は、「地域の魅力をつくる取組み・シティープロモーション」と題し講演が行われました。

講演では、人口減少対策としてサービスを高め定住人口を増やす取組みも重要だが、それだけで



研修会場の様子

は将来の町を支える「担い手」となる人がいなくなり、行政への負担だけが増大し町の持続が困難となってしまうことから、持続可能な地域社会の実現には、町の活動に積極的に参加する人を増やし、減っていく人口を意欲でカバーすることが重要であるとのことでした。

地域の魅力をつくる取組みには、町の内外に関わらず、町に関与・サポートしてくれる意欲的な人

を増やすことが効果的であり、つくられた魅力が町民の間で共有・拡散されることで、町民が町に対し興味を持つようになり、町民の参画が促されていくとのこと。また、町民が魅力を磨き上げブランド化することで、外部への発信が可能になり、どんな人が町の魅力に共感するのか検討し、彼らに向けた情報発信をすることで、「町外に住む町民に意欲的な人」を獲得することができるとのことでした。

シティープロモーションは町外に対して行うという認識でしたが、この講演で、主役となる町民に町のことを知ってもらうことが重要だということがわかりました。職員が少ない松崎町では、町民の協力は不可欠であり、町民が町政に対し興味を持てるように情報発信を行っていくことが重要であると感じました。

### 自治功労特別表彰

#### 稲葉昭宏 議員

去る10月15日、静岡県町村議会議長会総会において、稲葉昭宏議員が自治功労特別表彰を受賞しました。

県町村議会議長会の役員を務め、長年に渡る町議会の運営及び町の振興発展に寄与した功績が認められたものです。



表彰を受ける稲葉議員

### 土屋清武 議長 賀茂郡議長会長に就任

10月12日開催の賀茂郡町議会議長会において、土屋議長が郡議長会長に就任しました。

次の定例会は、3月6日(水)からの予定です。

## 議会のうごき

### 10月

- 4日 広報編集委員会
- 9～11日 総務常任委員会視察研修  
(新潟県・富山県)
- 12日 賀茂郡町議会議長会議 (南伊豆町)
- 15日 静岡県町村議会議長会定期総会 (静岡市)
- 18日 広報編集委員会
- 19日 賀茂郡町議会議員研修会 (河津町)
- 25日 議会だより121号発行
- 29～31日 静岡県町村議会議長会県外視察  
(滋賀県・京都府)

### 11月

- 6日 伊豆縦貫自動車道天城峠道路・アクセス道路  
要望活動 (名古屋市)
- 7日 静岡県町議会広報研修会 (静岡市)
- 12日 下田メディカルセンター議会全員協議会
- 16・20日 議会全員協議会
- 21～22日 町村議会議長全国大会及び  
賀茂郡議長会県外視察研修 (東京都)
- 29日 議会運営委員会・広報編集委員会

### 12月

- 5～6日 第4回定例会
- 20日 伊豆縦貫自動車道西伊豆アクセス道路要望活動  
(静岡県庁)
- 26日 西豆衛生プラント組合議会定例会

表紙の写真「消防団出初め式」は、文化協会写真部より提供。

#### 発行責任者

議長 土屋清武

#### 編集委員長

藤井 要

#### 編集委員

深澤 守  
伴 高志  
渡辺 文彦  
福本 栄一郎  
佐藤 作行  
稲葉 昭宏

### この人に

#### 聞きました19

##### 移住4年目

T・Yさん

町内で活動している皆さんを紹介するコーナーです。今回は、匿名で道の駅の関係についてお話を伺いました。

「道の駅パーク構想」についてどう考えますか？

旧依田邸は道の駅から歩くところ遠い、道も狭いので子供と歩くには少し危ない。あの道に車がいっぱい通るようになるイメージができない。

生産者として「道の駅の直売所」についてどう考えますか？

松崎町には直売所が既に2つある。今後、仁科の方にも直売所ができる。離れた大沢の三聖苑まで

人が来るのかな？と思ってしまう。

現状でも品物が足りていない。生産者が「道の駅の直売所」に品物を卸したいと思わせる工夫が必要だと感じる。しかし現状の振興公社は、施設によって手数料が違い、非常に品物を卸しにくい。

三聖苑はどんな「道の駅」を目指すべきだと思いますか？

直売所も温泉もたくさんある。埋もれてしまわないためにも個性のある道の駅を目指すべきだと考える。

昨今のキャンプブームで、キャンピングカーを頻繁に見かける。駐車場の一部に電源等を設置し休憩しやすくすればキャンプ好きが集まり温泉も賑わうと思う。

(聞き手 編集委員長)

### 海鳴り

今定例会で報告された町営観光施設の10月末入館状況では、長八美術館、岩科学校、中瀬邸などは前年同等かやや上回っているものの、伊豆まつぎき荘については、7月～9月の台風接近によるキャンセルなどにより宿泊客数で1200人余り、会食利用者でも380人減少しているとのこと。伊豆まつぎき荘は長年赤字続きであったが、職員OBの指導や従業員の頑張りにより、平成28・29年度とわずかではあるが黒字決算となった。しかし、このまま推移すると赤字転落は免れない。町当局は、利用人員の減少は台風などによるものとしているが、4月以降、全ての月が前年を下回っているというところは他にも要因があるものと思われる。議会としても何とか原因を探っていきたい。

(議長)